

ワイヤーロープ式防護柵衝突試験のご案内

独立行政法人土木研究所寒地土木研究所
寒地交通チーム

このたび独立行政法人土木研究所寒地土木研究所は日本国内の2車線道路の中央分離施設として導入を目指していたワイヤーロープ式防護柵の衝突試験（性能確認試験）を、つくば市の国土技術政策総合研究所で行うこととなりました。つきましては、ワイヤーロープ式防護柵の普及のために衝突試験を公開することにしましたので、ご興味のある方は是非見学にお越し下さい。



衝突試験状況(H23.1)

1. 試験概要

- ・試験場所 国土交通省国土技術政策総合研究所構内衝突実験施設
〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地
行き方：秋葉原駅からつくばエクスプレスでつくば駅下車、つくばセンター3番乗場から関東バスで土木研究所下車

- ・試験日時

乗用車：平成24年1月12日(木)午前11時
大型車：平成24年1月18日(水)午前11時

- ・試験条件

中央分離帯用 Am：高速道路の一般区間用
乗用車：衝突速度100km/h、衝突角度20度
大型車：衝突速度52km/h、衝突角度15度

- ・試験項目

車両の逸脱防止性能、乗員の安全性、車両の誘導性能、構成部材の飛散防止性能



国土技術政策総合研究所位置図

2. 見学について

- ・集合場所：国土技術政策総合研究所1階ロビー
- ・集合時間：午前10時20分（12日、18日）
- ・集合場所から衝突試験場への移動：午前10時30分（徒歩5分）
- ・防護柵、衝突試験の説明：午前10時40分
- ・見学申し込み先：平澤（hirasawa@ceri.go.jp）または武本（a-takemoto@ceri.go.jp）
電話(011)841-1738

所属、名前、メールアドレス、参加希望日等を実験日の2日前までにお知らせ下さい。国総研までの移動手段は、各自でお願いします。集合は、時間厳守でお願いします。国総研の入退出時には、正門入り口の受付で見学者リストの照会を受けて下さい。なお、台風・大雪等の悪天候により試験を順延する場合があります。

ワイヤーロープ式防護柵 について

ワイヤーロープ式防護柵は、たわみ性防護柵のうち、ケーブル型防護柵に分類されます。日本国内で普及しているケーブル型防護柵（ガードケーブル）と大きく異なる点は中間支柱が細く、車両が衝突した時に中間支柱が変形し、衝撃をワイヤーロープが受け止め、車両への衝撃を緩和することです。狭小幅員道路の中央分離施設として導入されている例として、スウェーデンの2 + 1車線道路が挙げられます。衝撃吸収能力が高いため、スウェーデンでは、交通事故死者数と重傷者数が大幅に減少したことが報告されています。また、設置コストが、安いこと（ガードレールの1/2、コンクリートの1/3）も導入されている要因です。

日本国内にある既存の防護柵にはない機能として、手動でワイヤーを外すことにより、部分的に中央分離施設を開放し、故障や事故等の緊急時の対応が可能な事が挙げられます。

ワイヤーロープ式防護柵の支柱は細いので、2車線道路の中央分離帯として設置する場合の必要幅員も、小さくなります。今後の高規格道路の整備に向けて、安全性の向上とコスト縮減を両立した施策として採用されることが期待されます。



スウェーデンのワイヤーロープ式防護柵付きの2 + 1車線道路



緊急時の解放事例